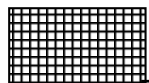


# 護床工を行っても濁りは諫早湾に拡散し、アサリやカキ等に被害が発生する恐れがある

※濁りの着色は、ケース1の護床工を行った場合



:アサリ養殖等



:カキ養殖

SS:懸濁物質量(濁りの指標) 図中のSSはケース1の護床工を行った場合の8月の日平均

1年でガタ土が10cm堆積

アセス素案より

開門により、諫早湾では濁りが発生し、護床工の対策を行っても濁りや速い流れを抑えることはできない。

また、護床工により、ガタ土の堆積は減少するものの、諫早湾北部沿岸では1年で10cmのガタ土が堆積

アサリやカキの養殖等に甚大な被害が生じることは明らか

対策が示されていない

アセス素案より

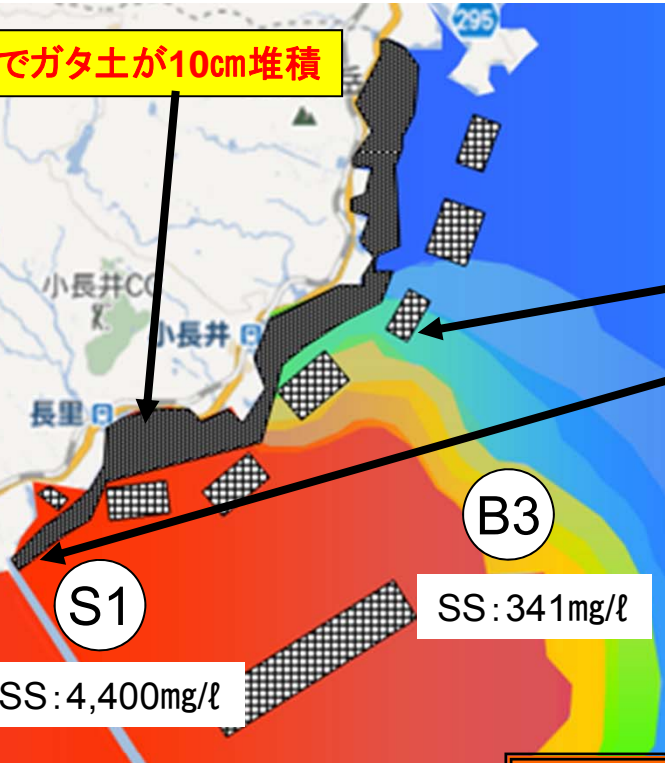
- ・アサリは殻長の2~3倍のガタ土堆積で100%へい死
- ・濁りが継続する場合、SS300mg/l以下でも成長に影響

アサリに壊滅的な被害を与えることは必至

アセス素案より

カキはSSが2mg/l~20mg/lで成長に影響

S1地点(北部排水門前)では、許容値の220倍  
B3地点(諫早湾湾央部)でも、許容値の17倍  
カキに壊滅的な被害を与えることは必至



カキの養殖



潮干狩りの状況

濁りがひどい

